

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800134		
法人名	社会福祉法人慈光会		
事業所名	グループホーム津森倶楽部まどかユニット		
所在地	熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1		
自己評価作成日	令和6年 3月10日	評価結果市町村受理日	令和6年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	慈光会ホームページにて情報公開
----------	-----------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	グループホーム津森倶楽部 運営推進委員会(令和5年度運営推進委員に依頼)		
所在地			
評価日(書類送付)	令和6年 3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスも第5類となり徐々にコロナ禍以前の状態に戻りつつある状況ですが、津森倶楽部において令和5年度は施設内感染者を出すことなく経過した1年となりました。利用者及びご家族の皆さまにはコロナ禍以降、面会や外出等不自由な状況での生活が続き、様々な我慢をしていただいております。今後は、これまでに経験して学んだことを活かし、利用者の皆様が安心・安全に楽しく過ごしていただけるような感染症に強い施設になれるよう職員一丸となり取り組んで参ります。またコロナ禍以前のように季節に応じた行事や外出等への参加や企画を行い、地域や近隣の方々との交流を深め、地域に根付いた津森倶楽部の本来の姿に戻れる様にとっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ご家族や地域の方と協力や連携を行っており、地域密着型施設としての役割ができていると思います。家族との情報共有についてもICTを活用され日々の様子を把握しやすく、家族の安心にもつながっていると思われまます。ヒヤリハットはやや多いと思うが、その対応は良くされていると思う。昨年度はコロナウィルスやインフルエンザの流行で、運営推進会議への参加も少なかったが、職員の皆様の気持ちよい挨拶、きれいに清掃された施設内が印象的で、また試食させていただいた食事はどれも美味しかった。コロナなど、まだ流行する期間もあり感染予防等苦慮されていると思いますが、少しずつ以前の状況に戻ってきている事が感じられる。利用者の方に向き合い、寄り添った対応に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 まどかユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時から変わらない事業所独自の理念を作成されており、施設内に理念を掲示し共有したケアを実施している。	アンケート結果からも理念に基づき、利用者や家族の思いを尊重され支援が実施されている。	今後も理念を共有し、実践して頂ければと思う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根付いた施設として、コロナ禍以降も出来るかぎり地域の方と交流している。	コロナ禍において、地域の方との交流の機会を作る事も苦勞され、ここ3年間、コロナの影響で津森倶楽部と地区の交流が出来ていないのが残念に思う。地域に根付いた施設として、出来る範囲内で地域との交流は継続されている。	施設の行事や施設内の草刈り等、地区に相談されてはどうか。コロナ感染症の前のように地域の方と交流を行えたらと思う。感染症の流行状況に応じて、工夫して交流の機会を作ってください。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から入居相談や施設見学の依頼があった際は、認知症の人との関わり方等説明し、悩みごとへの相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以降は感染状況に応じて会議開催の判断を行い、開催が困難な場合は期間中の利用者に関する状況等について、書面を郵送し報告を行っている。	コロナ禍以降、感染状況により運営推進会議が再開されたが、インフルエンザやコロナ感染増により書面郵送により報告されている。定期的に運営推進会議を行って、事業内容やサービス提供について報告を行い、意見をもらっている。利用者家族や行政、地域住民等の参加がある。運営推進会議で利用者が食べられている食事を試食させて頂いたり、利用者の状況を知ることができた。	以前のように、対面での会議が開催でき、密に連携がとれる状況に戻ることを願っております。今後も様々な形で、どのようなことに取り組んでいるのか知っていききたい。利用者の方の参加や、生活の様子が分るといいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の一員として参加いただいております。介護サービスに関する問題等相談しており、協力関係が築けている。	運営推進委員の一員として参加いただいております。介護サービスに関する問題等相談しており、協力関係が築けている。	このまま協力関係を続けて欲しい。包括支援センターとしても協力できる事があれば対応いたしますので、何でもご相談下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については法人全体で社内研修を定期的実施しており、日頃より身体拘束を行っていないか毎月会議で確認し、身体拘束が無いケアを実践している。	身体拘束について報告は受けておらず、身体拘束がないケアを実践されていると思う。	身体拘束については、令和6年度から高齢者虐待防止の推進が義務化されますので、今後も取り組みを継続していただきますようお願いいたします。今後も、身体拘束が無いようにケアを行って欲しい。 研修の頻度や内容はどうか。包括としても、定期的に外部向けに研修実施しておりますので、ご活用ください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待についても法人全体で社内研修を定期的実施しており、日頃より虐待を行っていないか毎月会議で確認し、虐待の無いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修会への参加や、インターネット等を活用して権利擁護に関する情報を把握し、理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には事前オリエンテーションにて、津森倶楽部における利用契約内容、重要事項等を説明している。また契約内容に関する変更が生じた際には、変更内容について記載した文書を作成し署名に同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員に家族代表に参加していただき、会議開催時に意見や要望等について聞く機会を設けている。 また他の家族についても、担当者会議や面会時にサービス内容について意見・要望等ないか尋ね、サービス内容へ反映している。	利用者、家族の人が事業所の対応に満足している人が8割位であるので、このままのやり方で良いと思う。 定期的に運営推進会議を行って、利用者家族や行政、地域住民等の参加がある。家族との連携が密にとれている。 ご家族の要望を聞かれている様子。	家族会なども行う機会が増えると良いと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議・ユニット会議を開催しており、利用者に関する事や職場環境等の業務内容について意見を収集し、サービスや業務内容の改善に努めている。	毎月会議を開催し、職員意見の収集・反映に努められている。 管理者が、職員の意見を聞ける場を設け、反映させている様子。	現場の職員の方が意見を言いやすい雰囲気を作り、サービスの質の向上や業務改善につなげて下さい。 運営推進委員会でも、ご利用者様のケアの工夫などをお話してもいいと思う。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課にて職員個々の業務について評価を行い、賞与等の給与査定に反映されている。 またプライベートも充実出来るように、毎月の勤務に職員個々の希望休を反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員については、法人全体で新入職員を対象とした研修を実施。 また入職後も社内研修を法人全体で年間計画を作成しており、計画的に業務に必要な知識・技術を学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城グループホーム連絡会開催時には参加し、互いの施設状況や情報の共有が出来るように努めている。また社外研修会等機会があれば参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前及び直後に本人との面談を行い、ニーズの把握に努めている。本人が言葉にできないことについては関係機関や家族から本人の情報をいただいたことを本人へ伝えるなど対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居直後にサービス担当者会議を開催し、本人の入居に伴う心配事や不安なことについてできる限り伺うように配慮している。最初の段階では、家族との信頼関係の構築が十分にできていない場合もあるため、入居後の情報提供などを行い、家族の状況によっては負担にならないように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の受け入れ可能な状況についても家族に伝えた上で、本人ができることに合わせた支援方法について家族と一緒に検討していけるように配慮している。今後の状況によっては、施設の紹介等を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、また茶碗を洗って頂くなど、利用者のできることを一緒にして頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに日頃の様子を伝えるようにしている。その際不安なことなどがあればお聞きし対応するようにしている。また月に1回近況報告書を作成し、往診の報告や写真の添付や、日常のご様子を記入し送付している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣に出かけたり、近所のお店に出向き一緒に買い物に行くなど行っている。	感染症対策を行いながら、散歩外出を行っている。 感染対策に留意しつつ外出行事を行い、利用者の方々の気分転換や体力低下予防、地域との交流の機会を持ってください。	気候も暖かくなって、花の鑑賞や外出する機会が増えたとご利用者も喜ばれると思う。 寺中・田原地区等のイベントへの参加や見学等検討下さい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と席を隣にするなど、利用者同士が交流出来る様にしている 又レクリエーション活動の時に一緒に出来るようにテーブルや椅子の位置を移動して孤立しない様に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所による退所後は、必要に応じて退所先と連絡を取り、退所後も利用者・ご家族共に安心して過ごしていただけるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人と直接対話した状況から本人の意向やニーズをくみ取り支援に繋げていけるように努めている。また、職員間での情報共有を行うためにミニカンファや個別に確認するなど意識して行うようにしている。	アンケート結果かた本人の思いや要望が受け入れられ、きめ細かな取り組みが行われていると判断される。 情報の共有は大事なことだと思います。利用者の意向や希望を把握し、職員の皆さままで共有、実現に向けての取り組み素晴らしいと思います。	利用者が行いたい事が実施できているでしょうか。趣味活動の要望等ありますか。 今後も利用者の望む暮らしの実現に向け、職員の皆さままで同じ方向での支援をお願いします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から生活状況や生活歴、趣味等の確認を行っている。 在宅であれば担当のケアマネジャー、施設利用者であれば生活相談員等からも把握されている サービス利用時等の生活状況や生活歴等の確認を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が24時間の生活状況について把握したことについてシートにまとめたものを参考に生活状況を実際に確認したり、計画書に反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の生活状況についてユニットの職員から様々な課題がみられる際はミニカンファレンスで話し合い、状況に応じて家族や医療機関などに相談を行っている。それにより必要に応じて意見や状況の改善が行えるように計画の見直し、作成を行っている。	介護計画をその都度変更していることはいいことだと思う。	定期的に家族の話を聞かれていると思うが、継続して頂きたい。利用者や家族の意向も確認し、計画書に反映するようお願いいたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とケアマネジャーの支援経過記録があり、介護職員等と確認した内容について支援経過記録に残す(ミニカンファレンスも含めて)ようにしている。家族とのやり取りなどで個別の支援に関連がある場合などは、職員間で情報共有できるようにユニット職員にお伝えしたりケース記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常、定期的な受診においては家族対応にて実施しているが、利用者の状況変化に応じて、柔軟に職員にて受診できるようにしている。必要時、車椅子等が必要な場合においては法人より車を借りるなどして支援を行っている。また、本人が希望される品物や必要物品については随時購入できるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降交流の機会は少なくなっているが、地域の方から暖かい支援をいただく機会があり、近隣の散歩にいくと地域の皆さんから声をかけていただいたり、神社へのお参りなどできる限り外出などを行うようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診される際には情報書を作成し、家族が担当医へ施設での状況が伝えられるようにしている。また訪問診療を希望される方には、訪問診療医の紹介を行い家族の対応が困難な方にも適切な医療が受けられるように努めている。	ご家族も安心されていると思います。	利用者の皆さまの日々の健康管理に努め、急な体調変化にも対応できる体制づくりをお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員として看護師有資格者を1名配置しており、入居者の体調変化が見られた際には状態報告を行い受診を含め対応について相談している。また訪問診療対象者についても同様に往診の必要性が無いか状態報告を行い相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、入院先へこれまでの生活状況等について報告し、入院後も治療方針や入院期間について確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では終末期の対応は行っていない為、入居者の方が重度化した場合や終末期についての検討が必要となった際には、本人の状態について家族へ説明し、今後について意向確認を行い、意向に沿えるように、協力医療機関や法人施設と連携している。	今後は終末期の対応が必要な方が増えるかもしれませんので、左記の取り組みを今後も継続されて下さい。連携を行っている施設は、ご利用者様、ご家族も安心だと思います。	住み慣れたグループホームで、家族や職員の皆さまに見守られながら最期を迎える事ができる環境作りができると思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心肺蘇生等について実技訓練や社内研修を実施しており、急変時や事故発生時のマニュアルを整備している。また事例発生した際には、対応に不備がなかったか検証し、問題点があれば改善案を検討し、同様の事例に対応出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等発生時に備えBCPが作成されており、また定期的に防災訓練及び防災教育を実施している。当施設には地域の放送器が設置されており、地震や火災などの災害発生時には近隣住民の方へ活用できる体制が整っている。	BCP作成については令和7年4月から義務化されます。既に作成されているので、その内容を実施されたり、また見直しをお願いします。定期的に防災訓練及び防災教育を実施されており、法人との協力体制も取れている。地域住民の方々との連携体制も整っている。	近隣の方の協力が必要となるので、細目に地域の方を巻き込んで活動ができていけばと思います。地域の消防団との連携もお願いします。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時の声のトーン、目線などを気をつけている。また排便等の確認は他の方に聞こえない様に配慮している。	一人ひとりの尊重とプライバシー確保のため、対利用者、職員間で適切に対応されていると思われます。	継続して頂きたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し、対話を行っている。 入浴介助については、同性介助を希望される利用者には、なるべく希望に添うようにしている。 体調を伺い、入浴の声掛けを行っている。 レクリエーション参加も意向を聞き参加していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせて声掛けや介助を行っている。 起床時間等、利用者の意向を聞きながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を聞き、毎月1回散髪を行い、他希望される利用者は、ヘアカラーを行っている。洋服については自身で洋服の選択ができる利用者には、ご自身で選んで頂いている。 季節ごとに衣服の衣替えを行い、季節に合った衣服を着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や、年間予定表を作成し季節に添った行事食、屋外での食レクを行っている。 お盆拭きは利用者へお願いしている。	利用者の希望を取り入れています。利用者の方も、とても喜ばれていると思います。食事を楽しみな方が多いと思います。季節や行事に合わせて、視覚的にも食事を楽しめる配慮がなされていると思います。利用者と一緒に片づけ等行われており、利用者の自立支援にもつながると思われます。	感染症の対応に注意を行う必要があると思いますが、ご利用者様とお話を行いながら、取り組んで頂けたらと思います。 物価の高騰で難しいこともあると思いますが、津森倶楽部の名物料理などができると楽しいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ、利用者の嗜好に合わせた食事を提供し、食事形態も、利用者の咀嚼状態に合わせて刻んだり、1口大にカットして提供している。水分については、利用者が好まれる飲み物を提供している。食事摂取量が少ない利用者には、栄養補助飲料を差し上げ、必要栄養量の確保を行っている。食事量、水分量の記録、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要な方には一人ひとりに合わせた歯磨き、スポンジブラシ等を用いたケアを行っている。また、必要時には歯科往診、定期的な口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や様子を見て、トイレ誘導を行い、一人一人の排泄パターンを把握するよう努めている。トイレでの排泄や自立に向けた支援、トイレに誘導し座る事での排泄習慣を大切にしている。夜間帯は排泄パターンを情報共有し、トイレの声掛けやパット交換をしている。	排泄のパターンの確認は大切なことだと思います。また、パットの料金やオムツの料金については、家族にとってご負担となりますので、継続して行って頂きたいです。一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に取り組まれていると思います。またパッド使用量を減らすことも意識されており、コスト面にも配慮されていると思います。	ご自分でトイレに行ける方もおられると思いますので、その方に対しては、できることを継続してして頂けたらと思います。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動でなるべく自然排便に繋がるよう努めている。便秘気味の方には往診時、主治医に相談し、緩下剤の服用や坐薬を使用する事で便秘の予防に努めている。排泄表は確認しやすいように、紙の表に排泄チェックシートを作成し記録を残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に考慮した上で好みの湯温や入浴時間、入浴剤等を工夫し、気持ちよく入浴出来るよう一人ひとりに合った声掛けを行っている。 また端午の節句や冬至の日には、菖蒲湯や柚子風呂にして、季節を感じれるような取り組みを行っている。 基本、週2～3回の入浴機会を設け、お湯は一人ずつ入れ替えている。	入浴の拒否がある方もいらっしゃると思いますので、季節を感じる環境づくりなどはとてもいいと思います。 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、頻度や時間帯の調整をされている。	ご利用様の好きな音楽を流すと、また雰囲気が変わりいいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングや居室にて自由に過ごしていただいている。活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。 状態に応じて休息をしてもらったり、居室の温度・湿度・照明にも配慮している。 定期的にシーツの交換、毎日居室掃除を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服については、薬情書にて薬の効能・用量について確認・把握しており、決められた時間に服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や製作をおこなったり、歌や体操を取り入れ身体を動かす取り組みを行っている。  ベランダに出てお花を眺めたり、園芸の水やりをしたりと屋外への気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	館内を希望があれば職員付き添いにて歩いたり、荘外への散歩も行っている。 また季節やイベント毎で車での外出をおこなっている。	馴染みのある場所への外出は、昔を思い出すことにもつながりますので、できる限り行って欲しいと思います。 津森神宮崇敬会としても、正月の門松を作って飾りつけを今後とも、やっていきたいと思う。 戸外での日常的な体験は、利用者の方の楽しみだったり大切なことと思います。	近場だけでなく、法人の事業で@ホームというカフェもありますので、ご活用して頂きたいです。 利用者の方々の気分転換や、地域との交流の機会を持ってください。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金については事務所にて管理しており、外出時や欲しい物は預り金から支援行っている。用途の使い道は家族への報告を行っている。 買ったものに関しては台帳管理記入。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況報告シートにて家族への近況報告を行っている。家族より電話があると取次ぎ、会話ができるよう環境を整えている。 LINEや電話での報告、年賀状を利用者様へ書いていただき本人の現状を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔を維持し綺麗にしている。室内の温度調節を行い、必要に応じて加湿器を使用している。季節に応じた工作物や塗り絵、貼り絵などを利用者の方が作成され飾っている。	季節に応じた掲示物は喜ばれると思います。行っていると思いますが、ご利用者様と相談しながら空間づくりを行うと、ご利用者様の意見を反映された空間になると思います。居心地のよい共用空間づくりのために、環境整備に配慮されている。今後も利用者の方と一緒に、心地よい空間づくりに努めてください。	屋内にいますと、季節を感じる事が少なくなると思いますので、見て楽しむ環境作りや、臭いで感じる事が環境づくりなどするとより居心地の良さに繋がるのではと思いました。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と席を隣にするなど、利用者同士が交流出来る様にしている。テレビを好まれる方は見やすい席に座られる様にしている。移動しやすいようにスペースの確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具については本人が以前使われていたタンスなどを使われていたり、家族との写真などが飾られている。 テレビを好まれる方は、家族に協力いただき、テレビを居室に設置されている。	居心地よく過ごせる居室の配慮のため、利用者の方の使い慣れた物や写真等を持ち込むことができるよう配慮されている。	思い出の写真やアルバムなどを置くと、それを基にお話ができたり、落ち着かれたりすると思います。帰宅欲求に繋がる可能性もあるため、人によって違うと思いますが、試みてもいいかもしれません。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に障害物がないようにし、安全に移動できる様にしている。歩行時は見守りを行い、出来ることは自分でしていただき、必要に応じた介助を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800134		
法人名	社会福祉法人慈光会		
事業所名	グループホーム津森倶楽部なごみユニット		
所在地	熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1		
自己評価作成日	令和6年 3月10日	評価結果市町村受理日	令和6年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	慈光会ホームページにて情報公開
----------	-----------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	グループホーム津森倶楽部 運営推進委員会(令和5年度運営推進委員に依頼)		
所在地			
評価日(書類送付)	令和6年 3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスも第5類となり徐々にコロナ禍以前の状態に戻りつつある状況ですが、津森倶楽部において令和5年度は施設内感染者を出すことなく経過した1年となりました。利用者及びご家族の皆さまにはコロナ禍以降、面会や外出等不自由な状況での生活が続き、様々な我慢をしていただいております。今後は、これまでに経験して学んだことを活かし、利用者の皆様が安心・安全に楽しく過ごしていただけるような感染症に強い施設になれるよう職員一丸となり取り組んで参ります。またコロナ禍以前のように季節に応じた行事や外出等への参加や企画を行い、地域や近隣の方々との交流を深め、地域に根付いた津森倶楽部の本来の姿に戻れる様にとっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ご家族や地域の方と協力や連携を行っており、地域密着型施設としての役割ができていると思います。家族との情報共有についてもICTを活用され日々の様子を把握しやすく、家族の安心にもつながっていると思われま。ヒヤリハットはやや多いと思うが、その対応は良くされていると思う。昨年度はコロナウイルスやインフルエンザの流行で、運営推進会議への参加も少なかったが、職員の皆様の気持ちよい挨拶、きれいに清掃された施設内が印象的で、また試食させていただいた食事はどれも美味しかった。コロナなど、まだ流行する期間もあり感染予防等苦慮されていると思いますが、少しずつ以前の状況に戻ってきている事が感じられる。利用者の方に向き合い、寄り添った対応に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 なごみユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時から変わらない事業所独自の理念を作成されており、施設内に理念を掲示し共有したケアを実施している。	アンケート結果からも理念に基づき、利用者や家族の思いを尊重され支援が実施されている。	今後も理念を共有し、実践して頂ければと思う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根付いた施設として、コロナ禍以降も出来るかぎり地域の方と交流している。	コロナ禍において、地域の方との交流の機会を作る事も苦勞され、ここ3年間、コロナの影響で津森倶楽部と地区の交流が出来ていないのが残念に思う。地域に根付いた施設として、出来る範囲内で地域との交流は継続されている。	施設の行事や施設内の草刈り等、地区に相談されてはどうか。 コロナ感染症の前のように地域の方と交流を行えたらと思う。 感染症の流行状況に応じて、工夫して交流の機会を作ってください。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から入居相談や施設見学の依頼があった際は、認知症の人との関わり方等説明し、悩みごとへの相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以降は感染状況に応じて会議開催の判断を行い、開催が困難な場合は期間中の利用者に関する状況等について、書面を郵送し報告を行っている。	コロナ禍以降、感染状況により運営推進会議が再開されたが、インフルエンザやコロナ感染増により書面郵送により報告されている。定期的に運営推進会議を行って、事業内容やサービス提供について報告を行い、意見をもらっている。利用者家族や行政、地域住民等の参加がある。 運営推進会議で利用者が食べられている食事を試食させて頂いたり、利用者の状況を知ることができた。	以前のように、対面での会議が開催でき、密に連携がとれる状況に戻ることを願っております。 今後も様々な形で、どのようなことに取り組んでいるのか知りたい。 利用者の方の参加や、生活の様子が分るといいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員の一員として参加いただいております。介護サービスに関する問題等相談しており、協力関係が築けている。	運営推進委員の一員として参加いただいております。介護サービスに関する問題等相談しており、協力関係が築けている。	このまま協力関係を続けて欲しい。 包括支援センターとしても協力できる事があれば対応いたしますので、何でもご相談下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については法人全体で社内研修を定期的実施しており、日頃より身体拘束を行っていないか毎月会議で確認し、身体拘束が無いケアを実践している。	身体拘束について報告は受けておらず、身体拘束がないケアを実践されていると思う。	身体拘束については、令和6年度から高齢者虐待防止の推進が義務化されますので、今後も取り組みを継続していただきますようお願いいたします。今後も、身体拘束が無いようにケアを行って欲しい。 研修の頻度や内容はどうか。包括としても、定期的に外部向けに研修実施しておりますので、ご活用ください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待についても法人全体で社内研修を定期的実施しており、日頃より虐待を行っていないか毎月会議で確認し、虐待の無いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修会への参加や、インターネット等を活用して権利擁護に関する情報を把握し、理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には事前オリエンテーションにて、津森倶楽部における利用契約内容、重要事項等を説明している。また契約内容に関する変更が生じた際には、変更内容について記載した文書を作成し署名に同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員に家族代表に参加していただき、会議開催時に意見や要望等について聞く機会を設けている。 また他の家族についても、担当者会議や面会時にサービス内容について意見・要望等ないか尋ね、サービス内容へ反映している。	利用者、家族の人が事業所の対応に満足している人が8割位であるので、このままのやり方で良いと思う。 定期的に運営推進会議を行って、利用者家族や行政、地域住民等の参加がある。家族との連携が密にとれている。ご家族の要望を聞かれている様子。	家族会なども行う機会が増えると良いと思う。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議・ユニット会議を開催しており、利用者に関する事や職場環境等の業務内容について意見を収集し、サービスや業務内容の改善に努めている。	毎月会議を開催し、職員意見の収集・反映に努められている。 管理者が、職員の意見を聞ける場を設け、反映させている様子。	現場の職員の方が意見を言いやすい雰囲気を作り、サービスの質の向上や業務改善につなげて下さい。 運営推進委員会でも、ご利用者様のケアの工夫などをお話してもいいと思う。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課にて職員個々の業務について評価を行い、賞与等の給与査定に反映されている。 またプライベートも充実出来るように、毎月の勤務に職員個々の希望休を反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員については、法人全体で新入職員を対象とした研修を実施。 また入職後も社内研修を法人全体で年間計画を作成しており、計画的に業務に必要な知識・技術を学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城グループホーム連絡会開催時には参加し、互いの施設状況や情報の共有が出来るように努めている。 また社外研修会等機会があれば参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前及び直後に本人との面談を行い、ニーズの把握に努めている。 本人が言葉にできないことについては関係機関や家族から本人の情報をいただいたことを本人へ伝えるなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居直後にサービス担当者会議を開催し、本人の入居に伴う心配事や不安なことについてできる限り伺うように配慮している。最初の段階では、家族との信頼関係の構築が十分にできていない場合もあるため、入居後の情報提供などを行い、家族の状況によっては負担にならないように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の受け入れ可能な状況についても家族に伝えた上で、本人ができることに合わせた支援方法について家族と一緒に検討していけるように配慮している。今後の状況によっては、施設の紹介等を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に、利用者に尋ねながら職員主体とならないように、利用者の方と一緒に出来る事を探りながら、無理ない家事手伝い等を行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には毎月近況報告シートを作成し状態について報告している。電話や面会があった時には、日頃の様子を報告、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中で感染状況に応じて、地域を含めた馴染みのある場所(津森神宮等)に散歩・外出している。	感染症対策を行いながら、散歩外出を行っている。感染対策に留意しつつ外出行事を行い、利用者の方々の気分転換や体力低下予防、地域との交流の機会を持ってください。	気候も暖かくなって、花の鑑賞や外出する機会が増えるをご利用者も喜ばれると思う。寺中・田原地区等のイベントへの参加や見学等検討下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席配置への配慮、トラブルがある方もおられるので仲裁に入り関係が悪化しないように努めている。 レクリエーション活動や体操、作品作り等何か活動を行なう時は、共に行なう事で孤立感を感じないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所による退所後は、必要に応じて退所先と連絡を取り、退所後も利用者・ご家族共に安心して過ごしていただけるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人と直接対話した状況から本人の意向やニーズをくみ取り支援に繋げていけるように努めている。また、職員間での情報共有を行うためにミニカンファや個別に確認するなど意識して行うようにしている。	アンケート結果かた本人の思いや要望が受け入れられ、きめ細かな取り組みが行われていると判断される。 情報の共有は大事なことだと思います。利用者の意向や希望を把握し、職員の皆さままで共有、実現に向けての取り組み素晴らしいと思います。	利用者が行いたい事が実施できているでしょうか。趣味活動の要望等ありますか。 今後も利用者の望む暮らしの実現に向け、職員の皆さままで同じ方向での支援をお願いします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から生活状況や生活歴、趣味等の確認を行っている。 在宅であれば担当のケアマネジャー、施設利用者であれば生活相談員等からも把握されているサービス利用時等の生活状況や生活歴等の確認を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が24時間の生活状況について把握したことについてシートにまとめたものを参考に生活状況を実際に確認したり、計画書に反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の生活状況についてユニットの職員から様々な課題がみられる際はミニカンファレンスで話し合い、状況に応じて家族や医療機関などに相談を行っている。それにより必要に応じて意見や状況の改善が行えるように計画の見直し、作成を行っている。	介護計画をその都度変更していることはいいことだと思う。	定期的に家族の話を聞かれていると思うが、継続して頂きたい。利用者や家族の意向も確認し、計画書に反映するようお願いいたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とケアマネジャーの支援経過記録があり、介護職員等と確認した内容について支援経過記録に残す(ミニカンファレンスも含めて)ようにしている。家族とのやり取りなどで個別の支援に関連がある場合などは、職員間で情報共有できるようにユニット職員にお伝えしたりケース記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常、定期的な受診においては家族対応にて実施しているが、利用者の状況変化に応じて、柔軟に職員にて受診できるようにしている。必要時、車椅子等が必要な場合においては法人より車を借りるなどして支援を行っている。また、本人が希望される品物や必要物品については随時購入できるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降交流の機会は少なくなっているが、地域の方から暖かい支援をいただく機会があり、近隣への散歩にいくと地域の皆さんから声をかけていただいたり、神社へのお参りなどできる限り外出などを行うようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診される際には情報書を作成し、家族が担当医へ施設での状況が伝えられるようにしている。また訪問診療を希望される方には、訪問診療医の紹介を行い家族の対応が困難な方にも適切な医療が受けられるように努めている。	ご家族も安心されていると思います。	利用者の皆さまの日々の健康管理に努め、急な体調変化にも対応できる体制づくりをお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員として看護師有資格者を1名配置しており、入居者の体調変化が見られた際には状態報告を行い受診を含め対応について相談している。また訪問診療対象者についても同様に往診の必要性が無いか状態報告を行い相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、入院先へこれまでの生活状況等について報告し、入院後も治療方針や入院期間について確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では終末期の対応は行っていない為、入居者の方が重度化した場合や終末期についての検討が必要となった際には、本人の状態について家族へ説明し、今後について意向確認を行い、意向に沿えるように、協力医療機関や法人施設と連携している。	今後は終末期の対応が必要な方が増えるかもしれませんので、左記の取り組みを今後も継続されて下さい。連携を行っている施設は、ご利用者様、ご家族も安心だと思います。	住み慣れたグループホームで、家族や職員の皆さまに見守られながら最期を迎える事ができる環境作りができると思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心肺蘇生等について実技訓練や社内研修を実施しており、急変時や事故発生時のマニュアルを整備している。また事例発生した際には、対応に不備がなかったか検証し、問題点があれば改善案を検討し、同様の事例に対応出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等発生時に備えBCPが作成されており、また定期的に防災訓練及び防災教育を実施している。当施設には地域の放送器が設置されており、地震や火災などの災害発生時には近隣住民の方へ活用できる体制が整っている。	BCP作成については令和7年4月から義務化されます。既に作成されているので、その内容を実施されたり、また見直しをお願いします。定期的に防災訓練及び防災教育を実施されており、法人との協力体制も取れている。地域住民の方々との連携体制も整っている。	近隣の方の協力が必要となるので、細目に地域の方を巻き込んで活動ができていけばと思います。地域の消防団との連携もお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声をかける際は、声のトーンや相手が不安や不快を感じないように声掛けしており、利用者の方が分からない事や、出来ない事があって不安になられている際は、寄り添った対応を行っている。	一人ひとりの尊重とプライバシー確保のため、対利用者、職員間で適切に対応されていると思われま。	継続して頂きたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなくご本人に意思確認をし判断してもらっている。 日中の過ごし方、テレビは何を観たいのか、居室で過ごしたいのか等をご本人の希望を聞いて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床時間・就床時間の対応を行っており、利用者の方から何か要望等あった際は、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については御家族にも協力いただき、季節に合った好みの衣類を選んでいただいたり、外部の理髪店により散髪の支援があり、好みの髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節応じた献立表を作成しており、イベント時には普段と違う食事を提供したり、誕生日の際には利用者の方が食べたいものを聞き取り、希望に添った食事を提供している。利用者の方にも野菜の下処理や食器拭き等ができる範囲の作業を一緒に行っている。	利用者の希望を取り入れています。利用者の方も、とても喜ばれていると思います。食事を楽しみな方が多いと思います。季節や行事に合わせて、視覚的にも食事を楽しめる配慮がなされていると思います。利用者と一緒に片づけ等行われており、利用者の自立支援にもつながると思われま。	感染症の対応に注意を行う必要があると思いますが、ご利用者様とお話を行いながら、取り組んで頂けたらと思います。物価の高騰で難しいこともあると思いますが、津森倶楽部の名物料理などができると思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分量は毎日記録しており、食事量の低下が見られた際には主治医に相談し栄養補助食の提供や、管理栄養士に助言を伺い必要栄養量・水分量の確保に努めている。 また嚥下状態に合わせて、食事形態の変更や、水分のトロミ等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し必要な方には介助をしている。義歯は夕食後、洗浄(ポリデント)にしている。口腔内の炎症等、異常が見られる方は御家族様に報告・相談し、了承が得られた場合、訪問歯科に診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットの種類、排泄状況等1人1人の排泄のパターンを確認し、トイレへ誘導する時間帯を把握して、声掛けをしながらトイレへ誘導し排泄をしていただくことで、パッド使用量を減らしている。	排泄のパターンの確認は大切なことだと思います。また、パットの料金やオムツの料金については、家族にとってご負担となりますので、継続して行って頂きたいです。 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に取り組まれていると思います。またパッド使用量を減らすことも意識されており、コスト面にも配慮されていると思います。	ご自分でトイレに行ける方もおられると思いますので、その方に対しては、できることを継続してして頂けたらと思います。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や乳酸菌飲料を提供し、自然排便が出来るようにしている。排便の有無を記録に残し、必要に応じて下剤・坐薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ずつゆっくりと入浴してもらい、時期に応じて季節を感じていただける様に、ゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいただいている。 入浴の声掛けをして希望のタイミングではない場合は、時間をずらしたりしながら個人に沿った支援をしている。	入浴の拒否がある方もいらっしゃると思いますので、季節を感じる環境づくりなどはとてもいいと思います。 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、頻度や時間帯の調整をされている。	ご利用者様の好きな音楽を流すと、また雰囲気が変わりいいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のゆっくりしたい時間、寝たい時間に居室に誘導し休んでいただけるように、寝具調整、エアコンによる室温調整、居室内の清掃を行い環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の薬については薬情書を確認し、薬の量や種類の変更があった場合は主治医や薬局に、薬の効能や副反応、量について確認し理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳み、食事の手伝い、掃除など、利用者の方に合わせたお手伝いをお願いし、日々の生活で役割が持てるように支援をしている。 レクリエーション活動でも何をされたいかなどを尋ねながら、希望に合わせて個別に沿った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内のお店や津森神宮など近場までの外出や、敷地内での散歩など利用者様が安心して楽しんでいただけるよう支援している。	馴染みのある場所への外出は、昔を思い出すことにもつながりますので、できる限り行って欲しいと思います。 津森神宮崇敬会としても、正月の門松を作って飾りつけを今後とも、やっていきたいと思う。 戸外での日常的な体験は、利用者の方の楽しみだったり大切なことと思います。	近場だけでなく、法人の事業で@ホームというカフェもありますので、ご活用して頂きたいです。 利用者の方々の気分転換や、地域との交流の機会を持ってください。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本事務所で管理しており、利用者には持っていないが、外出時や必要な物がある際には、御家族へ連絡を行い預り金からお金を使う支援をしている。買った物については出納帳に記入をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙など施設に届いた際は、利用者に渡しており、電話があった場合も、職員より状態をお伝えしながら利用者の方が電話でやりとりができるようにしている。 施設での普段の様子を家族へLINEにて写真を送ったり、テレビ電話にて日頃の様子を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース、居室等に季節に応じた物を掲示したり、共有空間を心地よく過ごしていただける空間になる様に室温や照明に配慮している。	季節に応じた掲示物は喜ばれると思います。行っていると思いますが、ご利用者様と相談しながら空間づくりを行うと、ご利用者様の意見を反映された空間になると思います。居心地のよい共用空間づくりのために、環境整備に配慮されている。今後も利用者の方と一緒に、心地よい空間づくりに努めてください。	屋内にいますと、季節を感じる事が少なくなるとお思いますので、見て楽しむ環境作りや、臭いで感じる事が環境づくりなどするとより居心地の良さに繋がるのではお思いました。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席の位置については入居者同士の相性などに配慮して決め、トラブルなどがあつた際は都度職員間で話し合い席の位置を変更し1人1人の居場所を作り快適な環境、空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みのある物を家族の協力のもと持参していただき、本人の生活スタイルに合わせた居室を作り、快適に過ごせる様に整えている。	居心地よく過ごせる居室の配慮のため、利用者の方の使い慣れた物や写真等を持ち込むことができるよう配慮されている。	思い出の写真やアルバムなどを置くと、それを基にお話ができたり、落ち着かれたりすると思います。帰宅欲求に繋がる可能性もあるため、人によって違うと思いますが、試みてもいいかもしれません。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングなどの共有空間、居室への移動動線に障害物を置かず、押し車や車椅子での移動の際の安全面に配慮をしている。		